




プロフィール

さくひん 作品の名前	いろえ ばらもん そうみかびん 色絵タペストリー 薔薇文 双耳花瓶	うらがわ 裏側についているマーク
ねんだい 作られた年代	1891年～1921年(今から100～130年くらい前)	
ばしょ 作られた場所	日本	
ばしょ 売っていた場所	アメリカ	

ひょうめん しつかん さくひん ちゅうもく
 表面の質感と、作品の名前に注目してください。

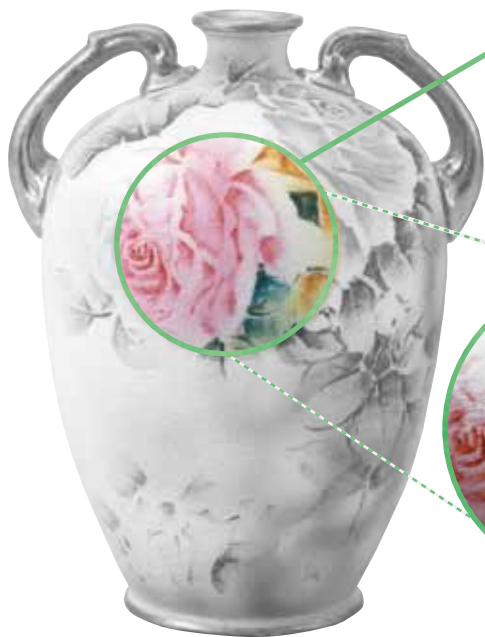
ここで
Question!
クエスチョン



q.1 どうじき ひょうめん
 陶磁器の表面がざらざらしています。
 これは「あるもの」をおし付けたあとです。
 「あるもの」とはなんのでしょうか？

- ① すな ぬの ③ やすり

この花びんにかくされたなぞは？
 うらをみてみよう▶



A.1 ② ぬの布

形を作ったばかりの陶磁器は、ねん土のようにやわらかくなっています。そこに布をおし付けて、ぬのめ布目をつける技法を「タペストリー」といいます。

ながしてみよう!

ぬのめ
布目のちがいで
ひょうめん
表面のざらざら感は
変わります。



キャンバスにえがかれた油絵のようにもみえます。

タペストリーは、部屋のかべなどにかざるために、絵や模様を織った布のことで、織物のような陶磁器を作りたかったのでしょうか。

「ちょっと耳よりエピソード⑧」

裏印ってなに?

「裏印」は、お皿の裏や花びんの底の裏につける、その製品を作った会社のマークのことです。製品の裏についているので「バックスタンプ」ともいいます。1890年(今から130年くらい前)に、「アメリカに輸出する日本製のものすべてに『MADE IN JAPAN』と書きなさい」という決まりができました。この時、多くの日本の会社は書き方をまちがえて『NIPPON』としてしまいました。「森村組」も例外ではなく、『NIPPON』と書かれた裏印は1921年まで使われました。昔の製品には、いつ作られたかがわからないものが多いです。しかし、『NIPPON』の裏印が1921年までに作られたものだとわかるように、裏印の使用期間から、作られた年代がしぼりこめるようになりました。

ニッポン
NIPPON



ジャパン
JAPAN



「ちょっと耳よりエピソード」は全部で24話あります。すべて集めてならべかえると、ひとつのお話になります。続きはwebでも読むことができます。